



# やあ！ya!



▲スロヴァキア大使(中央右)、知事(中央左)、サガン氏(右から2番目)他が出席した開会式のテープカット

# やあ！ya!

URL:<http://tia21.or.jp/>  
E-mail:tia@tia21.or.jp



▲スロヴァキアのパネルや伝統工芸品を展示した展示会



▲スロヴァキア大使館職員のポハバ氏(左から2番目)などが講師となった料理講習会



▲文化セミナーでは世界遺産の城や数々のレジャーを紹介

## スロヴァキアの魅力を紹介する「スロヴァキア・ウィーク」開催！

日本とスロヴァキアの外交関係が樹立して20周年になるのを記念し、スロヴァキア共和国大使館、TIA、在宇都宮スロヴァキア共和国名譽領事館の主催による「スロヴァキア・ウィーク」を10月18日(金)～26日(土)、とちぎ国際交流センターで開催しました。

ミハル・コットマン駐日スロヴァキア大使や福田富一栃木県知事、また同国が誇る自転車競技ロードレース選手のピーター・サガン氏が出席した開会式を皮切りに、スロヴァキアの投資環境を紹介する経済セミナー、有名な家庭料理「グラーシュ」などを作る料理講習会、世界遺産の城やレジャーなどを紹介する文化セミナー、そしてパネルや伝統工芸品などを集めた展示会を実施し、多くの県民の皆様にスロヴァキアの素顔や魅力に触れていただきました。

2013年12月号

No.124

Winter

- ◆やあ！クローズアップ
- ◆国際交流団体紹介
- ◆とちぎにくらして…
- ◆JICA情報局

- とちぎグローバルセミナー2013
- 日光SGGクラブ
- 朝妻ヤティさん(インドネシア出身)
- 平成25年度2次隊JICAボランティア「栃木から世界へ！」

## 「新規留学生のためのガイダンス＆懇親ティーパーティー」

栃木県の高等専門学校及び大学などに入学した留学1年生を対象に栃木県の概要、TIAの事業紹介、日本での留学生活のアドバイスなどをを行うパネルディスカッションをメインにしたガイダンスと懇親ティーパーティーを6月1日(土)にとちぎ国際交流センターで開催し、留学生・関係者合わせて74名が参加しました。

ガイダンスでは、今年度は3大学4名の先輩留学生から日本語上達の方法、日本人との付き合いなどさまざまな交流に関するアドバイスを受け、そのあと行われた懇親会では、宇都宮大学の学生による日本舞踊の披露をはじめ、留学生やパネリストによる日本語や母国語の歌の披露などで大いに盛り上がりました。



▲熱心なアドバイスをするパネルディスカッション

## 「マレーシアにおける家庭廃棄物削減プロジェクト進行中」

今年度で2年目になるJICA草の根技術協力事業「マレーシア・サラワク州クチン市バコ村の家庭廃棄物削減プロジェクト」における研修員受入として、6月24日～7月26日に本プロジェクトのカウンターパートであるサラワク州資源環境審議会(NREB)から2名の職員が、また9月2日～15日にはバコ村住民代表2名、NREB職員1名、北クチン市役所職員1名の計4名が来県し、茂木町を中心にコンポスト作成技術、環境行政、環境教育などに関する幅広い知識を学びました。



▲茂木町の美土里館でコンポスト作成技術を学ぶ2名のNREB職員(左)

の職員が今年度の第1回専門家派遣としてバコ村を訪問し、住民が試験的に実施しているコンポストの作成状況を確認したり、ゴミの不法投棄で汚れた村の清掃活動や、小学校における環境教育に参加しました。

## 「やさしい日本語セミナー」

外国人とのコミュニケーションを円滑にする「やさしい日本語」について学ぶセミナーを9月20日(金)にとちぎ国際交流センターで開催し、49名の方が参加されました。講師は、一橋大学国際教育センター准教授の庵 功雄氏と同センター講師の柳田直美氏。前半は「やさしい日本語」の研究が始まつた背景や多文化共生社会における必要性について庵氏が講演し、後半は柳田氏による実践的なワークショップを「やさしい日本語で話してみよう!」(栃木県・TIA作成)を参考教材として行いました。参加者からは、「これから積極的に活用したいといった声が多く寄せられました。」  
※「やさしい日本語で話してみよう!」はTIAホームページからご覧になれます。  
(<http://tia21.or.jp/new/yasashiinihongo/yasashiinihongo.html>)



▲やさしい日本語での言い換えを発表。左上は柳田氏

## 「市町国際交流協会連絡会議」

県内市町国際交流協会と情報交換を行い、連携の強化を図ることを目的に「市町国際交流協会連絡会議」を7月19日(金)にとちぎ国際交流センターで開催しました。



▲各市町国際交流協会の抱える問題が提議された連絡会議

今回の会議では外国人支援、外国人対象の防災訓練、市町協会との連携事業の必要性、通訳・翻訳及び、ホストファミリーバンク登録制度の情報共有などの議題に関して、各協会から現状が報告されるなど活発に意見を交わすことができました。

## 「日本語ボランティア情報交換会」

外国人に日本語を教えるボランティアを対象に、日本語の考え方などを学ぶ「日本語ボランティア情報交換会」を8月2日(金)にとちぎ国際交流センターで開催しました。講師に宇都宮大学非常勤講師の八重島 炎氏を迎えて、「自動詞」と「他動詞」の違いについて学びました。例えば「お皿が割れました」と「お皿を割りました」について、私たち日本人は普通に使い分けをしていますが、外国人にはどのように違いを説明すれば、間違わずに発話してもらえるでしょうか。県内各地から参加された45名の日本語ボランティアの皆さん、一つ一つ丁寧に文法を整理し、考え方の工夫について活発に意見交換を行いました。次回は別のテーマで3月に実施しますので、日本語を教えている方はぜひご参加ください。



▲どんどん間違えましょう!と励ます八重島先生

## 「もっと知ろう!医療通訳」

病院で外国人患者と医師などに通訳を行う医療通訳について理解を深めるセミナーを11月2日(土)にとちぎ国際交流センターで開催し、23名の方が参加されました。講師は、NPO法人多言語社会リソースかながわ(MIC かながわ)副理事長で英語医療通訳者の岩元陽子氏と医療通訳コーディネーターの佐野知子氏。MIC かながわでは、年間4,000件以上の医療通訳者の派遣を行っています。佐野氏は病院でのソーシャルワーカーとしての経験もあり、家族が通訳をするリスクや医療通訳により無駄な検査が少なくなる病院側のメリットなど具体的な事例とともに紹介し、岩元氏からは通訳の心得、患者や医師から信頼されるために必要なこと、英語がわかる医師の診察での苦労話など通訳の活動をわかりやすくお話ししていただきました。



▲外国人患者体験として、母国語以外で自分の症状を伝えるペワーク

# やあ！クローズアップ

# 「とちぎグローバルセミナー2013」

今年度で5回目になる「とちぎグローバルセミナー2013」（TIA及びJICA地球ひろば主催）が、7月6日（土）、7日（日）、13日（土）、20日（土）、27日（土）、8月3日（土）の6日間にわたりとちぎ国際交流センターで開催されました。今回は、県内11の国際交流団体等と協働し、世界12か国の文化紹介や国際理解を深めるワークショップなど計12のセミナーを実施し、合計292名の方が参加しました。各セミナーの開催団体及び内容は次のとおりです。

①NPO法人デックタイグループ「タイ料理教室」（7/6）…タイの「マッサマンカレー」と「野菜カービング」

②グローバル・グループ「高校生・10代ができる留学体験」（7/6）…スリランカ及びデンマークからの留学生による自國紹介など

③栃木県青年海外協力隊OB会「世界行ってみたらこんなトコ！」（7/6）…ルワンダ及びヨルダンでの青年海外協力隊活動の紹介

④アムネスティ・インターナショナル宇都宮グループ「ビルマの現在」（7/7）…ビルマ（ミャンマー）の知られざる現状を紹介

⑤シャプラニールとちぎ架け橋の会「日本が鎖国を始めたら」（7/13）…「日本が鎖国することになつたらどうするのか」につ



▲タイの「マッサマンカレー」を作る参加者

いてのワークショップ

⑥TIA&JICA地球ひろば

「もっと話そう！ エネルギーと原発のこと」

（7/13）…エネルギーや

原発のことを考えるワークショップ

⑦まちなか・せかいネット

トーとちぎ海外協力NGOセンター「身近なものから世界を感じよう」（7/13）…「世界」とのつながりを感じてもらうワークショップ

⑧とちぎYMCA「ワクワク・わいわいクイズとゲームで“ポーン”」

（7/20）…アメリカの若者とアクティビティで交流

⑨交流会「仲間」「日系2世のキヨミさん頑張る!!」（7/20）…ブラジル人キヨミさんの活動報告とブラジル料理

⑩栃木県産業労働観光部国際課「みんなでアメリカと中国の民族文化を知ろう！」（7/20）…アメリカの歴史や中国の少数民族事情を紹介

⑪PETJ「フィリピン料理教室と楽しい英会話」（7/27）…「アドボ」などの伝統料理やパンプーダンスに挑戦

⑫いいくら国際文化交流会「キルギスとインドネシアの本格文化」（8/3）…宇大の留学生がキルギスとインドネシアを紹介



▲アメリカの若者と楽しいアクティビティ

## 国際交流団体紹介

## 「日光SGGクラブ」

日光SGGは日本政府観光局（JNTO）に所属する善意通訳のグループです。善意通訳制度は1964年の東京オリンピックをきっかけに多くの外国人観光客が来られ、街頭や駅などで困っている外国人の言葉の障害を取り除くことを目的として作られた制度です。当クラブは1988年に日光宇都宮国際観光モデル地区推進協議会の発足に伴い旧日光市の呼びかけで外国人観光客の接遇を目的に設立されました。当初は日光市のお世話で活動しておりましたが、翌年には独立したグループになり、会員相互の協力の基で運営しております。現在会員は40名で、ほとんどが本業と掛け持ちで、日光市内はもとより、県内外からも積極的に参加しています。当クラブの主な活動は3つあります。先ずは東武日光駅の観光案内所に会員が当番制で毎日（冬季は金曜から月曜日）観光協会の職員と共に外国人観光客に情報提供をしています。ほとんどは英語



▲会員の実際の現地案内風景

ですが、スペイン、中国、韓国語での接遇もする会員もいます。接遇の合間には折鶴を折り、外国人観光客に差し上げ、好評を得ております。この業務は外国語の能力ばかりではなく、正確な情報伝達、そして接客能力も必要と

されるもので、日々勉強し緊張感を持って仕事をしております。世界遺産地区などの同行ガイドを予約制で行っています。冬季には週1回程度で東武日光駅から世界遺産地区のガイドを提供し

て多くの外国人観光客に喜ばれています。また、日光市民を対象とした「大人の英会話教室」を月に1回開催しています。内容は観光客への道案内や世界遺産のガイドの仕方などを簡単な英語で学ぶ講座です。この講座の受講生の中には日光の歴史などに興味を持ち英語に自信をつけてSGGクラブの会員になる方もいます。当クラブの欠点といえば一人ずつの活動なので、会員相互を知らないという事があります。年1回の総会の時にだけ会う機会があるのです。その解消にと月1回「英語でお話し」と題して会員が集まってその時々の話題で英語でのおしゃべりを楽しんでおります。「楽しくボランティア活動を」を目標に地域に貢献していくたらと活動しております。（文：会長 中村久美子）



▲英会話教室の授業風景



▲五重の塔での現地研修



## 朝妻 ヤティさん

(インドネシア出身・宇都宮市在住)  
インドネシア・バンドン市出身。1995年に来日し、日本人のご主人と結婚。現在中学生の息子さんと娘さんの4人家族。通訳ボランティアでも活躍中。

—はじめまして。日本語が本当に上手ですね。

インドネシアの大学で日本語を専攻し、大学卒業後ジャカルタにある教育文化省の研修センターで日本語教育プログラムの企画の仕事を4年間ほどしていました。この研修センターは国際交流基金で作られたもので、高等学校の先生の研修センターとなっていました。当時、留学プログラムがあり、東京学芸大学に留学する機会が得られたので来日しました。主人とは、目黒でインドネシアの留学生の卒業パーティーで出会い、日本で結婚しました。

—そうだったんですね。日本の生活はいかがですか。

主人の仕事の関係で、横浜、仙台、宇都宮と各地域に5年間ずつ計15年住んできましたが、栃木は住みやすいと思います。ただ、街の中のお店は夜早く閉まってしまいますね(笑)。

JICA  
情報局

## 【栃木から世界へ！】

平成25年度2次隊JICAボランティア

平成25年度2次隊JICAボランティア2名が10月にアフリカのカメルーン、中南米のジャマイカに向けて出発しました。志高くこれから2年の協力活動を送る2名にインタビューしてみました。

### 【青年海外協力隊2名の方の活動内容&抱負です。】



#### 青木裕樹さん（カメルーン／宇都宮市出身）

メーラー・アンバファ県、水・エネルギー省の県事務所に派遣。安全な水が地域住民に提供されるよう、水管理委員会の能力強化等を地域活性化を行いながら実施予定。現地住民と良好話し、笑い、楽しんで地域改善、開発の糸口をみつけてきたいと思います。



#### 佐藤徳秀さん（ジャマイカ／那須塩原市出身）

セントエリザベス教区ブラックリバーの開発委員会が派遣先。環境保護と産業復興を両立した持続的開発を目指しながらコミュニティの人々とともに活動したり、地域の方々と協力して地域発展に貢献していくたいと思います。

★みなさん2年間の草の根ボランティアをがんばってきてください。

【問合せ】TIA内 JICA栃木デスク 028-621-0777

### あしぎん国際交流財団からTIAに助成金

10月30日(水)に足利銀行本店で助成式が行われ、TIAは助成金をいただき、在県外国人相談事業や日本語学習支援事業で有効に活用させていただきました。誠にありがとうございました。

また、日本の子育ては、インドネシアとは違います。インドネシアでは、子どもは近所に預けることが多いのですが、自転車で子どもを連れていたりしました。日本の生活で一番困ったことは、自分が病気になったときでしょうか。主人は夜まで仕事に行って帰りが遅いので大変でした。インドネシアだったら、親戚より近所の人といわれるくらい、いざとなったら近所の人に頼むのですが、日本ではそういうわけにもいかなく悩みました。それなので出産のときは、インドネシアから妹を呼び寄せたりしました。本当に日本での子育てはひと苦勞でした。



▲多民族国家インドネシアスマトラの家屋

—大変苦勞されたようですね。今後の抱負を聞かせてください。

今は子どもたちも大きくなり、手がかかるなくなってきて、時間に余裕が出てきたので、日本にいるインドネシア人の手助けができるといいなあと思い、通訳を始めました。まだまだ日本語が堪能なインドネシア人は少ないので、今までの日本での経験を生かし、もっと幅の広い通訳をしていきたいと思います。

### 「宮っ子チャレンジウィーク」TIA職場体験

9月4日(火)～8日(金)の4日間、宇都宮市立豊郷中学校2年生の生徒がTIAで職場体験を行いました。TIAやJICAの事業内容、県内の国際化事業などについて理解を深めてもらったあと、民間交流団体の行う各種語学講座への体験参加などを行いました。企画展示室の設営をお願いしたところ、日本と文化の異なるアラブ世界に興味を持ち、「ヨルダンの旅」というテーマで、展示に挑戦してくれました。

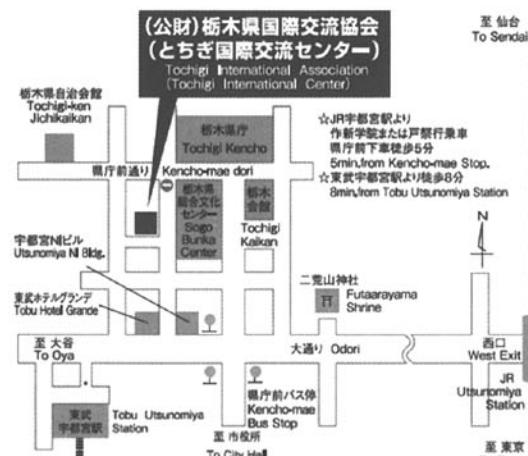


▲自分で企画した展示の前で

TIA  
ご案内  
図

#### (公財)栃木県国際交流協会 (とちぎ国際交流センター)

至 仙台  
To Sendai



編集・発行 公益財団法人栃木県国際交流協会  
住所 〒320-0033 宇都宮市本町9-14 とちぎ国際交流センター内  
TEL 028-621-0777 (代表) 028-627-3399 (相談専用)  
FAX 028-621-0951  
業務時間 8:30～17:15  
休館日 日曜・月曜・祝祭日及び12月29日から1月3日